

2014年9月30日

役員会・常任幹事会報告

## 国会議員の海外派遣申請

総務委員会 国際局

件名/派遣団名	ICAPP（アジア政学会議）第8回総会
期 間	2014年9月18日（木）～ 2014年9月21日（日）
訪問先	スリランカ・コロンボ
目的・企画内容	<p>ICAPP（アジア政学会議）「第8回総会：Building an Asian Community」に常任委員会委員として出席し、全体会議などにおいて、民主党の取り組みをアピールするとともに、各国政党代表との交流を行い、政党間交流、議員間交流の促進に努める。</p> <p>※第8回総会概要：30か国から72政党が参加予定（8/22現在）民主党は、日本からの常任委員会のメンバーとして、2000年9月の第1回総会より参加。</p> <p>※日程概要：9月18日：到着・歓迎会・第23回常任委員会、19日：開会式、本会議および分科会、20日：本会議、閉会式。21日：視察、帰国。</p>
出張者	荒井 聡 衆議院議員（役員室長）、大野 元裕 参議院議員（国際局副局長）
結果及び成果	<p>2日間にわたる総会で各党代表が順次スピーチを行った。基本的に「アジア共同体の構築」というテーマに資するものであったが、中にはフィリピンの政党が南シナ海における中国の活動を強く非難するような一幕もあった。民主党からは荒井衆院議員がスピーチを行い、満場の拍手を受けた。また第23回常任委員会には、大野参院議員が出席し、総会のコロンボ宣言、ICAPP規約改正などについて討議し、取りまとめに貢献した。また総会のセッションの議長を務めるほか、中国、インド、ベトナムなどの政党代表者との積極的な交流を行った。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICAPP をアジア地域の政治的なコンセンサス形成の場として考える場合、その活用に労力と工夫が必要であるが、一方で、主催国の主張を各国にアピールし、議員外交の基礎を作る場としては有効と強く感じられた。またアジアの大国である我が国に対する配慮も見られた。ついては、①他の政党を巻き込んだ理事会主催（必要経費は1千万円程度か）の検討、②人脈形成と主導的立場の維持のため、少なくとも2年程度は同じ議員が出席し、継続性を維持することを提案したい。</li> <li>・ ICAPP、特に常任委員会は交渉や議論で長時間を要し、その労力に比して実際の成果は薄い、その場にいること、プロセス及び発言することが重要と考える。その意味で、わが党からの参加者は英語力にとどまらず、英語でのディベート能力が不可欠である。</li> </ul>

18日から20日にかけてアジア政党国際会議（ICAPP）総会および理事会が、「アジア共同体の樹立」というテーマの下、コロンボにおいて開催されたところ、以下の通りご報告申し上げます。なお、民主党以外には共産党志位委員長及び党職員4名の参加が見られた。

平成26年9月21日  
衆議院議員 荒井 聡  
参議院議員 大野 元裕

## 1. 日程等（特に記載ない限り、両名出席）

9月18日（木）

- 午後 代表団、コロンボ到着
- 1730 チュン共同議長兼事務局長との協議
- 1830 歓迎レセプション
- 2100 理事会（大野議員出席）

9月19日（金）

- 0800 総会開会式典（於ネルム・パクサ・ラジャパクサ劇場）  
式典においては、副議長の一人として荒井議員が選出された。
- 1130 総会セッション（於バンダラナイケ記念国際会議場）  
荒井議員より、党を代表してスピーチを行った
- 1900 ラジャパクサ大統領表敬（大野議員出席）
- 1900 大統領主催晩餐会

9月20日（土）

- 0900 総会セッション  
大野議員が第五セッション議長を務めた
- 1700 閉会式
- 1900 ウィックレマシング統一国民党主催晩餐会

## 2. 総会及び理事会報告

### （1）理事会報告

総会に先立ち、18日夜から翌日未明まで行われた理事会においては、コロンボ宣言のドラフト審議及びICAPP規則の変更等について審議が行われた。コロンボ宣言のドラフト部分では、パラ5の以下の部分について議論となった。

この関連で我々は、当該地域における紛争に深い憂慮を表明し、アフガニスタン、アルメニア＝アゼルバイジャン、イラク、イスラエル＝パレスチナ、朝鮮半島、パキスタン及びシリアを含む当該地域内の可能性として危険な地域のすべてが、対話を通じた平和的に、国際法と国連諸決議に従い解決されるべきことを強調



する。我々はまた、我々の地域内の一部における最近の領土問題が、当該地域全体への深刻な脅威となりかねないことを想起する。

このパラについてヴェトナム理事より、後半のセンテンスの「我々の地域内の一部における最近の領土問題」という部分を切り出し、「アフガニスタン、アルメニア＝アゼルバイジャン・・・を含む」の「・・・」の最後の部分に並列的に加えると共に、切り出した以外の後半のセンテンスを削除することが提案された。これに対し中国理事が反対を表明し、後半のセンテンス全体を宣言から削除することが求められた。

ヴェトナム理事にはマレーシア理事が同調を示す一方、ロシア理事が中国に理解を示しながら、原文通り維持することを支持した。これに対し、アゼルバイジャンより、「最近の領土問題」を「現存するすべての領土問題」にすることが提案され、マレーシアがこれに強硬に反対した。

大野理事より、ICAPP 内規は、二国間及び域内の複数国間の紛争に直接関係ある点については触れないこととなっているはずで、我が国としても領土問題については言い分はあるが、内規に従い、宣言では平和的解決の原則確認にとどめるべきで、すなわち、原文を維持すべきと主張し、タイ等が同調した。

最後に、豪州理事より「最近の領土問題」を「現在の領土問題」に変更すべしとの提案があり、すでに長い時間を経過していただいていた議長が強引に各理事の合意を取り付けたところ、通訳を介していた中国理事が出遅れたこともあり、豪州理事の提案に変更の上、原文維持で宣言が採択となった。

ICAPP 規則については、各国の与党と第一野党 (Principal Opposition) に理事会参加の機会を与えるために、原則各国 2 枠の理事会参加に改めることが了承された。

また、近い将来の総会開催について、中国側の求めに応じ ICAPP より習近平中国主席に書簡での要請を行うことが提案され、合意された。

## (2) 総会報告

総会においては、各党の代表よりスピーチがなされた。ほとんどのスピーチは、アジア共同体というスローガンに資するためのものであったが、フィリピン中央民主党が、南シナ海における中国の活動に対する激しい非難が行われる一幕もあった。

なお、我が方からは荒井衆議院議員が民主党を代表してスピーチを行い、満場の拍手を受けた。

## 3. 感想と所見

- (1) 総会自体は盛況で、多くのアジアの政党が与野党を問わず参加した意義は見受けられ、人脈形成に役立つものと考えられた。その一方で、アジアには拘束力

のある国際的決まり事がなく、全会一致を重んじるという問題は、この組織においても引き続きみられることとなった。

- (2) ICAPP からの総会もしくは理事会主催の要請は、野党になったこともあつてか、我が党になされることはなかった。ICAPP をアジア全体のコンセンサス形成の場として考える場合には、その活用に問題と労力が必要であるが、その一方で、主催国の主張を各国に植え付け、あるいは議員外交の基礎を作る場としては有効と強く感じられた。また、原則とは異なり、実際にはアジアの大国である我が国に対する配慮も見られた。ついては、①他の政党を巻き込んだ理事会主催（必要経費は1千万円程度か）の検討、②人脈形成と主導的立場の維持のために、少なくとも2年程度は同じ議員が出席し、継続性を維持すること、を提案したい。
- (3) その一方で、自民党が脱退したこと（ロシアの理事会報告ご参照）もあり、我が国のプレゼンスは極めて低いように思われた。可能であれば、不参加の各党に対し、ICAPP を代表しての参加の懲憑ではないものの、会議の報告等については共有し、ICAPP の場での我が党の国内における主導権を維持することは適切であると考ええる。
- (4) ICAPP の特に理事会は長時間を要し、それに比較した成果は薄い、その場にいること、発言することが重要で、英語力にとどまらず、英語でのディベート能力が不可欠である。したがって、理事会にはかかる能力を有する人材を、総会には大臣経験者レベルの代表を送り込むことが適切と考えるところ、今回の人選は適切であったと思料する。

#### 4. 添付資料

- (1) 日程
- (2) コロンボ宣言
- (3) フィリピン中央民主党代表総会発言要旨
- (4) 中国共産党代表総会発言要旨
- (5) ICAPP 事務局長との会談録
- (6) 理事会アジェンダ
- (7) その他、ICAPP 提供資料集

---

※上記、「4. 添付資料」につきましては、枚数が膨大となるため、配布は控えさせていただきます。  
ご入用の方は、国際局(tel:03-3595-8601)あてにご連絡ください。

18日、チュン ICAPP 共同議長兼事務局長は、ICAPP 総会のためにコロンボを往訪した荒井衆議院議員及び大野参議院議員に対し、同総会会場ホテル内において、ICAPP への日本の関与及び日韓等の議員外交について要旨次の通り述べた。

## 1. 日本の ICAPP への関与

- (1) 前回の理事会で報告させていただいたとおり、自民党が ICAPP から撤退する旨、書面をもって通告してきたが、日本のプレゼンスは極めて重要と考えており、民主党の積極的な関与を期待したい。
- (2) ICAPP は民主主義の嚆矢を掲げているが、残念ながらこの地域では複数政党制の下の民主主義が保証されている国は、少ない。このような中で日本の政党のコミットを示すことは、ICAPP にとって死活的に重要である。
- (3) このような中、自民党が ICAPP の理事会（以下、SC）から撤退し、日本の与党からの参加がなくなった。そこで、自分（チュン共同議長）は訪日し、自民党側に再考を働きかけたが、彼ら（伊藤達也衆議院議員並びに河野太郎衆議院議員）は、参加の費用も主催の費用もないと、予算上の制約を理由に再考を拒否した上、その後の接触も断ってきている。また、李在京韓国大使（当時）からの推薦もあり、公明党の山口代表に対し、この経緯を説明したところ、山口代表は状況に理解を示し善処を約したものの、今回の総会への出席には至っていない。
- (4) この際、民主党の協力も得て、日本側の政党のプレゼンスを強めたいと考えているところ、ご協力をお願いしたい。（これに対し当方より、「説明を多とする。我々としては、かかるメッセージを自民党側にお伝えすることはできる。いずれにせよ、日本側と接触する際には、民主党側にもお伝えいただければありがたい」と述べおいた。）

## 2. 日中韓議員交流等

- (1) 日中韓の関係がうまく行かない中、議員外交の重要性は増しているように思われる。
- (2) 韓国としては、例えばソウルにおいて年内の土曜日に1日をかけて日中韓の主要な政党の代表を集め、これらの国の間にある問題のブレイン・ストーミングを行うべきではないかと考えており、すでに貴党の武正衆議院議員並びに藤本参議院議員にその旨をお伝えしたが、何ら回答に接していない。
- (3) 中国側は、自民党が右会議に出席するのであれば参加する旨回答してきており、自民党の参加が強く望まれるところである。（これに対し当方より、あくまで印象ではあるがと前置きしたうえで、かつての自民党と中国共産党の間の歴史問題に関する政党間対話との関係を整理する必要があること、アジェンダと協議の方法及び広報のルール等を詳細に検討し合意しなければならないこと、という二つのハードルを解決する必要があると考える旨、述べおいた。） (了)